

Title	まえがき : 「適正テスト」が始まり, ISO コミュニティ通訳認証の一翼を担う
Author(s)	林田, 雅至
Citation	ISOコミュニティ通訳認証実績報告書. 2022, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/87467
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

まえがき

—「適正テスト」が始まり、ISO コミュニティ通訳認証の一翼を担う—

大阪大学名誉教授

ISO コミュニティ通訳認証言語能力審査官

林田雅至

ISO コミュニティ通訳認証の一翼を担う「適正テスト」は 2018 年から関西 SDGs プラットホームの一環の事業で実施を始め、2020 年度まで大阪大学 CO デザインセンターの SDGs に関する大阪大学実績として取り組んだ、所謂言語の検定試験ではなく、言語の双方向運用能力をチェックする新機軸のチェック・テストである。

一方、CO デザインセンター：コミュニケーションデザイン科目については 2019-20 年度、授業評価の一環で、公益財団法人・旧大阪公衆衛生協会事務局長井戸武實氏の献身的な協力の下に、2018-2019 年度外部会場(「オカムラ」共創空間、株式会社オカムラ関西支社「Kizuki LABO」内)と同様に紙媒体によるアナログ実施を行った。

ところが、2020 年度になるとコロナ禍オンライン授業を強いられ、「適正テスト」もオンライン実施となったために、急遽問題用紙(PDF)及び解答用紙(Word 文書)の受講者への電子配布によって行うことになった。問題用紙提示(PPT による時限的自動送り)や解答用紙(Google Form による即時解答回収)と、本報告書編集責任者・印南敬介氏¹⁾の尽力によって一気に高度な電子化プロセスの進化を遂げた。

なお、「適正テスト」の結果 CEFR 基準で B2 に相当する 80%以上の正解率を得た受検者を合格とし、認証審査に必要な書類は下記の通りである。

- 1) 「ISO13611_2014 コミュニティ通訳のためのガイドライン遵守調書」
- 2) 「ISO13611_2014 コミュニティ通訳のためのガイドライン認証授与申請書」
- 3) 「個人情報取り扱い同意書」

1)～3)の書類に必要事項を記入し、印刷の上署名（記名及び押印も可能）、スキャンデータを作成。

4) 学位証明書

5) 通訳業務証明書（当該諸機関の証明書）

6) 5)のスキャンデータ(PDF ファイル)を作成の上、1)～3)と合わせてメールで提出

【提出先】

『ISO13611：2014 コミュニティ通訳のためのガイドライン』認証授与

窓口担当者：大阪観光大学国際交流学部 教授 佐藤晶子

以上の手続きを経て、最終審査の上正式な認証となる。

2021年5月13日には8名の初の認証式をリモート開催し、元大阪観光大学学長・伊藤鉄也(世界的な源氏物語研究者)²から認証書(デジタル版)をオンライン越しに授与していただいた。

今後、2024年には現在のガイドラインレベル(推奨事項)から、本来の国際規格のレベル(要求事項)になり、従来のJIS(日本工業規格：2019年に日本産業規格改め)と同等の扱いとなり、それまで、「適正テスト」の実施を進め、認証者も出すように鋭意尽力することが求められる。なお、今年度認証者は総数12名(英語：5名、中国語：2名、ポルトガル語：3名、ロシア語：2名)である。

本プロジェクト推進者一同一致団結して、大願成就を果たすべく、邁進したいと思う。

<https://www.tourism.ac.jp/news/cat1/8110.html>

¹ 印南敬介：双方向運用能力(スクライビング)：

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/67895/?lang=0>

<https://bee.workmill.jp/event/overseas01.html>

<https://kokusaifes.com/kikaku/indoor/relay/>

² 海外平安文学情報：<https://genjiito.org/>